「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例【春日部市教育委員会】

校種	小学校	教科名	国語	観点･内容	読むこと

〈調査結果〉

読むことにおいて、県平均正答率を 4.9 ポイント上回っている。特に「文章の要点を読み取ること」では、14.4 ポイント上回っている。また、「段落の内容を的確に読み取ることができる」のポイントも高くなっている。

〈具体的な取組〉

本校では、市教委研究委嘱モデル校の委嘱を受け、研究主題を「生きる力としての国語力を育てる国語教室の創造　～豊かな言語能力を身につける言語活動の充実～」とし、国語科を中心として研究に取り組んでいる。具体的な取組は以下のとおりである。

1　国語科の授業の充実

(1) 目的意識・相手意識を持った「読む・話す、聞く・書く」活動の充実

本校では、授業の中で「交流」場面を意図的に設定し、国語科の授業の充実を図っている。特に、児童が表現する場面においては目的意識・相手意識を常に持ち、伝えあうための工夫なども意識させながら「交流」場面の充実を図った。

ペアでの交流(低学年)

グループでの交流(中学年)

全体での交流(高学年)

(2) 学習のルールなどの共通理解

どの先生でも、どの学年でも学習のルール(規律)を同じにすることで継続して指導することができ、授業内容の充実につながる。

・声のものさしの掲示　・授業の１０の約束　・授業最初、最後の挨拶

2　日常的な取組

(1) 学校図書館の活用と読書活動の充実

地域のボランティアの方による毎週月曜日朝、毎週水曜日昼休みの読み聞かせ、第５火曜日の朝、担任による読み聞かせを行うことで、本に興味を持ち、読書好きの児童を増やしている。毎週末には家庭での読書を推奨する活動も続けている。

(2) 朝の活動の充実

毎週木曜日の朝の時間を「書き取り･作文」として取り組んでいる。漢字の書き取り、よい文章の視写、学校行事終了後の作文など、各学年の発達段階に応じた課題を明確にし、基礎的･基本的な知識、技能の習得を目指している。

〈取組の成果〉

児童に着実に力を付けるために、国語科の授業はもちろん、日常の取組の充実を図ったことで①読書好きの児童の増加　②音読や朗読の上達　③交流を通して聞く態度の育成、理解力の向上につながっている。書くことにおいても県平均正答率を 9.4 ポイント上回っている。読むことの取組が他の内容によい影響を与えていると考えられる。